

花まるたより

2023

5

INDEX

- 高濱コラム
- 花まるっ子の川遊び
- 聴人の無人島レポート
- 卒業生物語
- レインボータイム
- 花まるリビング
- おはなしのキッチン
- 平沼純の旅する読書
- とある花まるの先生が、
わが子の中学受験に直面した
- Rin コラム
- タカラモノはここに
- 花まるコラム
- 花まるファミリー



サナギ

先日、力も感性も信頼できる教育現場の人物と話していたら、「小3が一番おもしろい」という意見で一致しました。

昨年から成年年齢が18歳になりましたが、未成年の時代は、どの年代もかわい。花まる学習会の創設以前に高校生や大学受験浪人生を教えていた時代も、それはそれで毎日充実していました。自分と向かい合うことができる青春期ならではの真剣さと、「さあ飛び立つぞ」とでも表現すべき、若葉煌めく美しさに満ちていてまぶしかったです。スクールF.C.の授業に大きな時間を割いていた頃の中学生は中学生で、いかにも不安定で少し悪くなったり人生の悩みが深くなってきたりしていて助けたくなる時期。兄貴分として頼られると何でもしてあげるよという気持ちにさせられました。

きたからでしょう。「え！こんなに変わったのか！」と感じる頃なのです。

昨年も今年もそうでした。私の教室では、全体を見て回りはしますが、私の授業担当は主として小1と小3（高学年の「Sなぞペー」の解説も）。一年ぶりに見る新3年生には驚くばかりです。内気で内向的に見えていた子が、友達関係も広がり大いにおしゃべりするようになっていく。少し自己中心性も見られた子の発言に、まわりへの配慮を感じられる。小1まではいわゆる場面緘黙の状態、ほぼ一言も発しなかった子が、嘘のようにしっかりと発言できるようになっている。クラスのムードメーカーの子の、先生のユーモアや教え方のうまさなどに対する評価の言葉や判断力が増して、授業全体が盛り上がる上手な「合いの手」を入れてくれるようになる……。そんなこんなが一度に起こり、個々人にも刮目させられるし、全体としての授業がポカポカ力に楽しく温かいものになるのです。それは、スポーツや音楽のブロをを目指すかどうか、中学受験をするかどうかなど、それぞれが最初の分岐点での選択をする直前の祝祭のようでもあります。

昨年の年末年始の3年生クラスでの出来

事です。

作文コンテストで、ある女の子が田舎に住む曾祖母のことを書きました。それはひいおばあちゃん100歳のお誕生日会で感じたことでした。会ったらギュッと抱きついて会えなかった間のことを話すと、大きな口で笑いながら聞いてくれること、作っている野菜がおいしいこと、よく手紙を書いてくれること、少し食べられなくなったと聞いてとても不安になったこと、温かくて安心するシワシワの手が大好きであること……。

副教室長の上武が感動し、迎えに来られたお母さまに書き添えた作品を読んでいただき「おばあさまにも読ませてあげてください」と語ったそうです。そして、感じるころがあったのでしよう、異例ですが、作文コンテストの結果が出る前に毎月の「おたより作文」に載せたのです。お母さまは、すぐに作品の掲載されたおたよりを持って帰郷し読んでもらったそうです。するとひいおばあさまは涙を流して、来る人来る人に「Mちゃんが書いてくれたんだよ」と見せていたそうです。そして何度も読み返して「ばあばは、幸せだなあ。嬉しいなあ」とおっしゃっていたそうです。そし

新刊情報

『ともだちってなに？—きみがせかいとつながる絵本②』

フェリシティ・ブルックス ぶん、マール・フェレーロ 絵
高濱正伸 監修、山北めぐみ 訳（合同出版）



思いやりとやさしさの心をはぐくむ！世界に羽ばたくきみに、知っておいてほしい「ともだち」のすべて。シンプルな質問に子どもたち自身が答えられるよう、カラフルなイラストで紹介する絵本シリーズ。第一弾の「多様性」に続く第二弾は、「友達」について。クラスみんなて話し合いとなる情報が満載です！

『子育ての「選択」大全』

正解のない時代に親がわが子のためにできる最善のこと』
おおたとしまさ 著（KADOKAWA）



わが子のお稽古事や塾、学校を選ぶのは、大変なことだ。日々大きくなっていく子どもに夢中になっているうちに、次々と決断を迫られる。お稽古事一つでも、運動・音楽・絵画・勉強と分野が多岐にわたるし、選択の基準がわからない。本書は、どの類書よりも親たちにとって納得できる点で、優れていると感じた。一つひとつの教室に、きちんと足を運んで取材していることが伝わるし、深く踏み込んでいる。何を良しとするかのバランスにも信頼が置ける。教育界にいる私でさえ、「あそこはそういう教育なんだ」と、新たな学びがあった。

高濱の本棚

て年明けにお亡くなりになったのです。これは、お母さまからのお手紙で知ったことです。

そしてその作品が、2000人を超す参加者のなかで、最優秀賞に選ばれました。お手紙で感動していたし、私はこの学年の選出にはかわわっていないので、驚きました。

さてお伝えしたいのはここからです。

1月最終の授業日。翌月から受験のためにスクールFCに移動する子もいるので、5年近く一緒に学んできた仲間が揃うのは最後の日です。上武が「なんとかみんなの前で表彰してあげたい」と言って、少し無理して表彰状と記念品を早めに手に入れました。そして私が発表しました。「みんなの仲間のMちゃんが、なんと、作文コンテストで、最優秀賞を取りました！」と。それを聞いた瞬間の、みんなの目の輝き、「やったー！」と大声をあげての、うねりのような盛り上がりは忘れられません。少しくらい嫉妬やひがみが入ってもおかしくないだろうに、本当に20数名のみんながみんなワールドカップで日本が勝利したかのような笑顔とジャンプ。我が事として「俺たち・私たちのMちゃんが優勝したぞー」という気持ちで一体となって喜んでくれたのです。それからMちゃんのまわりに集まり、「おめでとーっ！」のシャワー。肩を抱く子、話しかける子、飛び上がり続ける子……。

男女の壁など一切なく歓喜し共感する姿は、本当に美しく「これが3年生だよな」とも思いました。

私自身も、講演でよく語っているように、場面緘黙を克服したのが3年生のとき。また3・4年の二年間はクラス替えなしだったのですが、仲良し男子4人組でいつも一緒に遊んだり野山を駆け回ったり歌ったりした時間の安心感と楽しさは忘れられませんが、男女一緒にグループでスタンバイミーのような冒険の旅に出た日のことも一生の思い出です。5年生以降にひどいイジメに巻き込まれたことも、つらかったですが、いま思えば学年相当の通過儀礼であり、「羽化」の時期、内省の時期だったのだと思います。そして、ひるがえって3・4年生時代は独特の素晴らしい時代なのだと感じます。

いま、5歳とか小1だとかのお子さまをお持ちの方は、日々に心配があふれているかもしれません。「うちの子だけ〇〇ができない」というような悩みもあるでしょう。しかし、必ず成長するし、小3なのか小6なのか中2なのか、大きな変化の時期がこれから何度か必ずおとずれます。一番肝心かなめなのが、子どもの自己肯定感であり、そのための最大関数が「母親の安心」であるというのが私の考えです。このような事例を聞くことも安心感につながるでしょう。

から、ぜひ講演会にも足をお運びください。そして何より教室長はそなたのためにこそ存在します。いつでも何度でもご相談ください。かわいいかわいい子どもたちの変化を、楽しんでいきましょう。

花まる学習会 高濱正伸

子育ての悩みは高濱へ！

花まるだより 2023年5月号

(令和5年5月15日発行)

編集・発行 株式会社こうゆう
花まる学習会
発行人 高濱正伸
企画・編集 久慈 菜津紀
編集 金井 彩・清田 奈穂
坂田 翔・高橋 奈穂
デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子
印刷 アークランド株式会社

「ちょっときいてよ！高濱先生」大野勢太郎の海賊ラジオ

高濱がメインパーソナリティーを務めるアプリラジオ番組。

毎週土曜日17:00に更新！約10分間のラジオ番組です。

子育ての悩みや困っていること、くすくす笑えるわが家の珍事など、高濱にきいてほしいことを大募集！

クルーネーム（ラジオネーム）を添えてお送りください。

<https://www.hanamarugroup.jp/hanamaru/feature/radio/>

HP▶



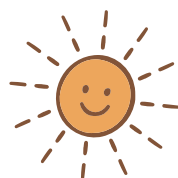
SUMMER
SCHOOL
2023

水かけ合戦だー!!

お魚
どこかなー

リーダー
見てー!

花まるっ子の川遊び



魚さばきにも挑戦!

魚つかみ



水かけ合戦



修行中!

花まる学習会



栗林英一・くりりん | 千代田区出身、小・中・高と剣道で鍛え上げた背筋、滲み出る所作の品のよさ。さぞや何代も続くとお坊ちゃんかと思ったら、お母さまは中国の北朝鮮との国境近くの田舎育ち。冬は川が凍り脱北者が渡って来るのを目撃していたそう。「息子が笑われないように」と猛練習で訛りのない日本語を習得したそうです。



高濱先生も本気!!



水中探索



タカラモノ見つけた♪



夏だ! サマーだ!



岩って
あったかいんだね!



飛び込みにも
チャレンジ!

川遊び満喫中



ダムをつくろう!



天然のスライダー♪



花まるSTORY

▶ 川遊びの安全管理

子どもたちが思いっきり楽しむために不可欠なのが、大人による安全管理。花まるのサマースクールでおこなっている安全管理の視点をベースに、ご家族での遊びにも活用していただけるよう動画にまとめました。ぜひご覧ください。

＼ 家族の夏のために ＼

川での遊び方・安全管理

～安全に楽しく遊ぶためのポイントをお伝えします!

<https://youtu.be/Xf4Se7QWnAs>



職人の無人島レポート 25

「花まる子ども冒険島」開拓のため、カトパンに続いて広島に引っ越した職人。港がある安芸津町に新たな拠点でもでき、ますます力が入ります。そんな2人の日々を、現地からレポートします。

特製マグカップ

5月になる頃には、母屋の片づけも一段落してきた。ようやく事務局としてまともに使える場所になってきたのである。上がるのをためらうほど汚れていた畳も、いまではゴロゴロすることだってできる。たまに來客があると当たり前のように廊下を歩き、当たり前前に部屋に入って家を出ていく。床の汚れを気にする様子はない。それを見て、私は掃除が完了したことを知る。

ある種の仕事は、続けていくうちにその存在自体意識されなくなることがある。水や電気、通信などのインフラはい例だ。スプーンのフォルムやドアノブの位置なども同様で、そうした仕事はあるレベルを超えると空気のような存在になつて人の意識に上らなくなる。たぶん洗練された快適さを消費し続けると人の知覚は自然に退化するのだらう。宇宙飛行士の筋力のように、使わないものは衰えていくのだ。もし何かの間違ひで私の懐に一生働かなくてもいいほどの大金が転がり込んだとしても、私は仕事を続けるだらう（ウンだろ、と思う方からの大金をお待ちしています）。消費だけで生きていくのは楽だが、恐ろしい。でもそれを幸福だと考える人もいる。

GWを過ぎると、サマースクールに向けての準備が本格的に始まった。島の開拓はもちろん、オンライン説明会の準備、バスや宿の手配、広島現地スタッフの採用計画、必要備品のリスト作成、壊れたテントの修理、YouTube動画の撮影、などなど。それに加えて、毎週の授業も行っ。カトパンとベルはオンラインの教室を担当しているが、私は広島市内で開校した対面の教室を担当させてもらうことになった。初めてつくしの毎日が慌ただしく過ぎていく。

準備物のなかに、今年から用意する特別なものがある。「無人島マグカップ」だ。話のはじまりは、高濱さんの誕生日プレゼントとして会社から贈られたマグカップである。そのマグには無人島の写真がドーンとプリントされていたのだが、そのマグを使うたびに「島のことを思い出すんだよね」ということで、参加記念の品として同じものを子どもたちにも贈ろうということになった。せっかくだから、無人島の横に高濱さんの言葉で「親父の小言」みたいに載せてみたらどうだろう、と話が膨らんで高濱さんに12の言葉を書きおろしてもらった。

10年後、社会人になったタカシは

やっとその日の仕事を終えて誰もいない真っ暗な部屋に帰る。電気をつけるとテーブルにぼつんとあのマグがあつて、それでココアなんか飲んでいるうちにふと高濱さんの言葉が目に入るようなシーンを想像しながら作った特製のマグカップは、無人島コース限定の参加記念品です。

花まる学習会 橋本一馬



無人島にきた人だけがもらえる特製マグ。
高濱さんの言葉は、見てのお楽しみ。

花まる無人島公式
LINE アカウント
無人島企画や最近の
様子を配信中！



ぜひ登録してね！

カトパン 加藤 崇彰

花まる学習会 無人島プロジェクト責任者。学生時代から、花まるの野外体験に深くかかわってきた。現在は広島県へ移り住み、オンライン教室の教室長を務めながら、開拓団の受け入れや無人島開拓の準備を進めている。



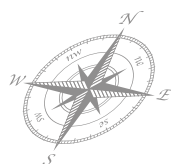
職人 橋本 一馬

花まる学習会関西ブロック教室長。前職が家具職人だった経歴から「職人」のモデルネームを持つ。家具製作技能士、狩猟免許、ブッシュクラフトアドバイザーなど、ちょっと変わった資格や経歴を活かし、「メシが食える大人」に独自の視点でアプローチを行うことが好き。2022年から広島に移住し、無人島開拓に携わっている。ソロキャンプが趣味。



今どうしてる？

卒業生物語



花まる学習会・スクールF卒業生のその後に迫ります。
第21弾は、事業部長相澤が、伝説の教え子にインタビュー！

ようこそ先輩!!



飯島 匠太郎さん

【花まる学習会】新松戸幼稚園教室（小1～6）

*担当教室長：相澤樹

【スクールF C】本八幡校（小4）

【進路】公立中学校→市川高校→早稲田大学（スポーツ科学部）

【現在】株式会社文化放送 営業推進部

■思い出の家出事件

相澤 匠太郎といえば、八王子事件だよ。

飯島 懐かしいです。

相 あれは5年生の夏、サマースクールから帰って来たあとの、夏期授業1回目だったな。匠太郎が教室に来ないからお母さんに連絡したら「あれ？ 行っていないませんか？」って。捜索した結果、なんと千葉から自転車で八王子のおばあちゃんの家に行っていたという。あれはもう、語り草だよ。

飯 ありがたいです（笑）

相 翌日の授業にはすごく反省しているふつの顔で来てさ、お母さんもひとしきり

私の前で匠太郎を叱って平謝りしてくださって帰ったあと「で、楽しかったの？」って聞いたら「めっちゃ楽しかった」って。

飯 ああははは！ 自販機の下で拾った百円でどう生きるかという冒険ストーリーとして「命の百円玉」と作文にまとめたのも覚えています（笑）

相 流山にもおばあちゃんが住んでいるのに、どうして八王子に？

飯 最初は「東京でホームレスでもして一人で暮らしてやる！」と思ったんです。

相 なんだよそれ！（笑）本当に無事でよかったよ。

飯 ゲームばかりしていることを母に注意されて決行した、壮大な家出でした。あのときは、本当にご心配をおかけしました……！

■花まるの思い出

相 花まるで印象に残っていることは？

飯 なぞペーが一番好きでした。

相 おお。やっぱりなぞペーか。

飯 解いていておもしろかったし、得意でした。作文コンテストも印象深いです。あの頃の自分の文章をいま読み返すとおもしろくて。

相 匠太郎はたしか、学年優秀賞に選ばれたよね。

飯 先生方に認めてもらえて自信がついて、自分の文章はおもしろいんだと思って書けるようになりました。

相 野外体験のことは、覚えている？

飯 中学1年生までずっと参加していたので本当にいろいろありました。なかでも思い出深いのは、数日間を一緒に過ごしたリーダーが賞状を書いて最終日に読み上げてくれた、あの時間です。リーダーのあたたかさを感じながら数日間の思い出が一つにまとまって、頑張ったことを認めてもらえて、参加してよかったと思える時間でした。

相 毎年の野外体験で自己肯定感が磨かれていったんだね。

飯 野外体験だけでなく花まるでの日々全体を通して、何かができると先生方に認めてもらえたから、生きるうえでの自信がついたと思います。自分にはどこかしらにいいところがあると思えたんです。

■エンタメ業界への道のり

相 いまは、ラジオ局で活躍しているんだよね。



飯 就活時期に本当にやりたいことが何なのか確信をもてず、大学院に進むことにしました。その時期にお笑いコンビ・オードリーさんのラジオにハマって「そういえば、自分は人を楽しませることが好きだ」と気づいて、大学院の受験を辞退してエンタメの世界を目指すことにしました。

相 一発ギャグを作っていたよね？

飯 オリジナルの一発ギャグをスキルシェアマーケットで売って見たら、お笑い芸人の方を買っていただけたり、「一発ギャグ販売師」としてテレビに取り上げていただけたりするようになりました。自分の企画を形にして人を楽しませることのおもしろさを実感して、エンタメの世界を支える作家やディレクターになりたいと思い、ラジオ局を目指しました。まだ駆け出しですが、新しくおもしろいものを生み出せるように頑張ります。

相 いやあ立派になったなあ。これから

飯 ありがたいです！

学生時代のことや家族のことなど、全編はこちら！





こんげつ

今月のレインボータイム

出題：坂田翔（花まる学習会）

【2色キューブ】

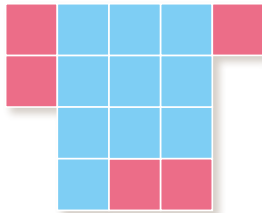
解答はこちら！



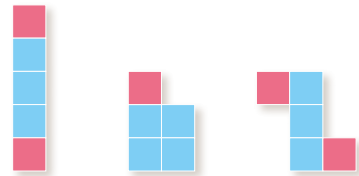
色のついたキューブをお手本のように並べるには、どう置けばいいかな？
キューブは回しても裏返してもかまいません。

レベル 10

✓ お手本

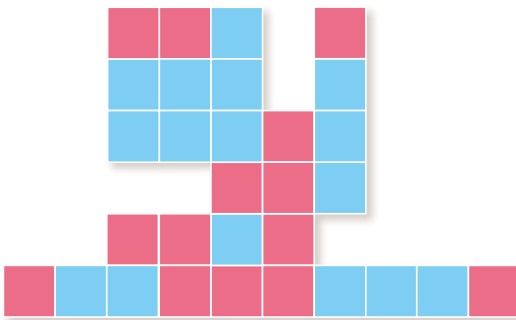


✓ パーツ

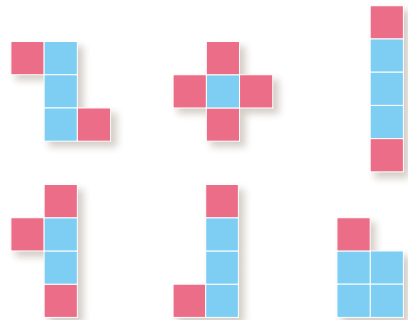


レベル 50

✓ お手本

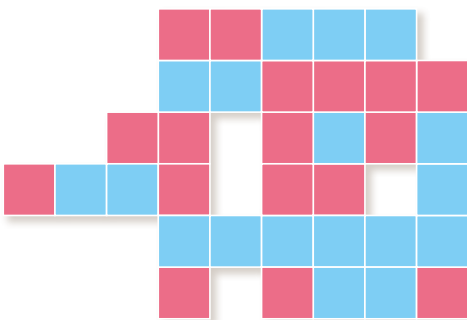


✓ パーツ

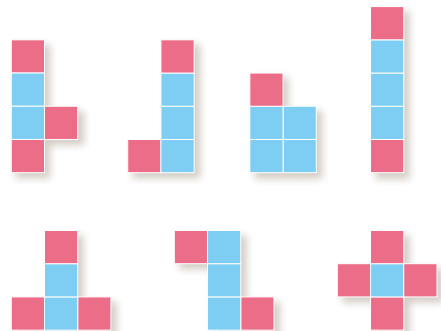


レベル 70

✓ お手本



✓ パーツ





勝谷 里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、小3・小1・1歳児の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくご伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんずう初級』（学研プラス）ほか



子どもは、熱量のあるほうに流れる

「水は低きに流れる」という孟子の言葉があります。水が高いほうから低いほうへ流れるように、物事が自然の成り行きに従って連んでいくことのたとえだそうです。また、それに続き「人は易きに流れる」という言葉も聞きます。人は、無意識のうちに、楽なほうに流されてしまふ、という教訓だそうです。

これにかけて、私は最近、「子どもは、熱量のあるほうに流れる」と思っています。

たとえば、お風呂あがり。1才半になる次女に保湿クリームをぬろうと待ち構えているのですが、そんな母親のところにはまったく寄り付かず、裸で楽しそうに駆け回っているお兄ちゃんのとをトコトコトコトコ追いかけて回っています。どちらが「楽しい」というエネルギーを発しているのかを、本能的に察知しているのでしょうか。

たとえば、音楽。時々、次女のためにCDで童謡を流して、それはそれで楽しそうに聞いている。ところが、8歳の長女が少し離れたところで、流行りの曲に合わせて踊りはじめると、次女は必ずそちらに向かっていき、一緒に手をぶんぶん振り回しています。機械よりも、人の熱量に惹かれるのだろうか……そうだよね、お姉ちゃん、楽しそうだもんね、なんて見ていると思います。

もう一つ子どもたちを観察していて気づいたのは、子どもをひきつける「熱量」の最上級は「目の前のあなたのことを笑わせるよ」というメッセージを込めたものではないのか、ということです。親になり、大から小まで、子どものイヤ

イヤ対応をする場面はたくさんありますが、「待つ」ことが大切。それに加えて、親側のエネルギーを、よいしょと振り絞って、場の空気を「笑い」に持つていくことができれば、割とイヤイヤを乗り越えられる場合が多いのです。「あなたを笑わせたい」というメッセージは、子どもにとってとても嬉しい愛情表現でもあるのでしょうか。

花まるの授業は、全体的な躍動感を大切にしていますが、その躍動感を生み出すために、前に立っている教室長の圧倒的な熱量が必要になってきます。「あなたたちを躍動させますよ、頭をぐるぐる回転させている楽しい状態にしますよ」というエネルギーのぶつけ合い。

五月、新生活のリズムに慣れてくる頃……とも聞きますが、相変わらず毎日ドタバタのわが家。生活のなかで、子どもとともにいる時間の長い親が、花まるの先生と同じくらいの量のエネルギーを四六時中出すことは疲れてしまうので、本当に無理……と思うのですが、その日の自分のエネルギー残量を見極めて、要所要所でドカンとエネルギーをかける。「あなたのことを笑わせるよ」というメッセージに変えてエネルギーを発する。それが結果、子どもたちにとっても親にとっても、いい生活リズム、楽しい日常につながるのばいなのと思い、日々試行錯誤中です。

花まる学習会 勝谷里美



『アベコベさん』
フランセスカ・サイモン 文
ケレン・ラドロー 絵
青山南 訳
(文化出版局)

最初から最後まで、突っ込みどころが満載の本です！



『ヘンテコシャンプー』
みやにしたつや 作・絵
(Gakken)
お約束の笑い、びっくりする笑い……「ヘンテコ」シリーズで3冊あります。



『キャベツくん』
長新太 文・絵
(文研出版)
絵で笑わせにくるので、小さい子から楽しめます。シリーズ本もあり。

“相手のことを笑わせよう！”
そんなメッセージが込められた絵本を紹介します。
子どもと一緒に読むと、
自然と家のなかで笑いが生まれる
素敵な本ばかりです。



初版以来40年以上にわたって、日本のみならず海外でも翻訳されてベストセラーとなっている『はれときどきぶた』、通称「はれぶた」シリーズ。とにかく破天荒で奇想天外なストーリー展開。主人公の小学3年生、島山則安の周りで起こるハチャメチャな出来事の数々は、世代をこえて多くの子どもたちの心をつかんできました。第一巻の『はれときどきぶた』では、則安がこっそりつけていた日記を母さんに読まれてしまい、仕返しのために嘘だらけの「あしたの日記」をつけ始めます。ところが、日記に書いたことが次々と現実になり、則安は混乱します。家のトイレに大きなへビが現れたり、金魚が空を飛んでアカンペーをしたり、挙げ句の果てには空から大量のぶたが降ってきたり……。

そんな出来事のなかでとりわけ大きなインパクトを与えるのが、母さんが作る「えんぴつの天ぷら」のエピソードです。則安が日記に書いた通り、次の日の夕食には母さんが平然とえんぴつを天ぷらにして食卓に出して……。

父さんは、ばりばり音をたてながら、えんぴつの天ぷらを、うまそうに食べた。

「やっぱり、HBから、3Bくらいが、やわらかくて、うまいな。こんどは、色えんぴつを食べたいな。」

ねえ、母さん」

「そうねえ、則ちゃん、もも色と、きみどりを持ってきたさいよ。」



『はれときどきぶた』
矢玉四郎 作・絵
(岩崎書店)



スクールFC
ひらぬま 平沼 純

スクールFC 平沼 純

空色も、いいかもしれないわね」
むちゃくちゃだ。
だいいな色えんぴつを、天ぷらにされて、たまるか。
(矢玉四郎『はれときどきぶた』岩崎書店より)

その後、天ぷらを食べすぎた父さんは急にお腹が痛くなってしまうが、母さんが作った「消しゴムおろし」を食べた後無事回復するという展開に……。

この場面を読んでいると、どういわけか本当に鉛筆や消しゴムが食べられるように感じてしまうのは私だけでしょうか？（もちろん絶対に真似しないように！）

この「えんぴつの天ぷら」、最近では思わぬ形で注目されています。最近全国の小学校で、本に出てきた料理を給食で出す「図書給食」という試みが流行っていて、この「えんぴつの天ぷら」がよく出されているようなのです。たとえば東京都目黒区のある小学校では、えんぴつのような形に切ったさつまいもと、青のりを入れた衣を使って再現したものが出されたとのこと。ほかの学校でも、それぞれに食材や調理法、見た目を工夫したさまざまな天ぷらが作られています。物語に登場する料理が出されるなんて給食の時間が楽しくなりますね！色とりどりの豊かな食材にあふれる、春の季節。ぜひご家庭でも、親子でさまざまな天ぷらにチャレンジして、物語の世界を再現してみたいかがでしょうか？



えんぴつの天ぷら (筍とアスパラ)

作業時間：30分 難易度：★★★★☆

レシピ・写真提供：料理家 江口 恵子 (natural food cooking)



材料

- 天ぷら衣
- 薄力粉…………… 1/2 カップ
- 卵黄…………… 1 個分
- 冷水…………… 70 ～ 80ml
- 塩…………… ひとつまみ

- 筍の水煮 …………… 1/2 本
- アスパラガス…………… 1 束

作り方

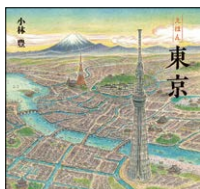
- ① 筍は厚み 1.5cm 程度の放射状に切り、内側部分を切り落として鉛筆のように形をつくる。アスパラガスは長さ半分に切り、穂先部分を使う。
- ② ボウルに天ぷら衣の卵黄と冷水を混ぜ合わせ、薄力粉と塩を加えてざっくりと粉が残る程度に手早く混ぜる (粉っぽさが残る程度で OK)。
- ③ ①に薄く薄力粉 (分量外) をまぶし、②の衣をつけ、180℃の油でうすいきつね色になるまで揚げる。

*今回は春の旬、筍とアスパラガスを使ってえんぴつに見立てましたが、さつまいもやジャガイモ、いんげんなど、細くてまっすぐなものや、細く切ることができる野菜であれば、同じ天ぷら衣でおいしい天ぷらをつくるができますよ。
*切り落とした部分の筍やアスパラガスの根本部分は、お味噌汁の具や和風パスタの具などに使うのもおすすめです。





書を持ち、冒険へ出よう！



『えほん東京』
小林豊 作・絵
(ポプラ社)

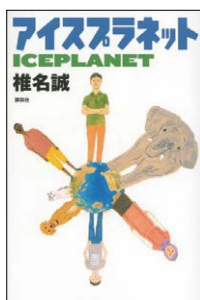
「東京は、不思議なまちだ。いまとむかしが、かさなりあって、生きつづけている。」品川、墨田川、浅草など、東京の街を散歩する「ぼく」とおじいちゃんの眼前に次々と現れる、数多の失われた風景や人々。春夏秋冬と移りゆく季節のなか、まちの記憶をたどる幻想的な旅が描かれます。遠くに行かなくても、自分の住んでいる町にも素敵な歴史や物語が秘められていると感じさせる、珠玉の一冊。



『シーラカンスとぼくらの冒険』

歌代 朔 作
町田 尚子 絵
(あかね書房)

6年生のマコトが塾帰りに地下鉄の駅で出会った、人間のようには歩いて言葉を使うことのできるシーラカンス。マコトは彼を「師匠」と呼び、幼なじみのアキラとひと夏の冒険にくり出します。地球と生命の歴史について、未来について考えるきっかけが得られる、壮大なスケールの冒険物語。『ネコツメのよる』などでも有名な絵本作家による幻想的な挿絵も魅力的。第41回児童文芸新人賞受賞作。



『アイスプラネット』

椎名 誠 著
(講談社)

中学2年生の悠太の家に居候している、38歳のおじさん「ぐうちゃん」。世界中を旅してきたぐうちゃんが語る奇想天外な話の数々に、悠太は少しずつ惹かれていきます。中学2年国語教科書に掲載されたノンフィクションの続編。椎名氏自身が世界中で撮影した写真が各章に彩りを添え、人間の多様さを感じられます。世界のさまざまな食文化をテーマにしたエピソード「ペランダバーベキュー」が特に興味深いです。



『草木とみた夢
牧野富太郎ものがたり』

谷本 雄治 文
大野 八生 絵
(出版ワークス)

あさ朝ドラで話題、「日本植物学の父」と名高い牧野富太郎博士の生涯を描いた伝記絵本。幼い頃から草木を愛する気持ちを貫き通し、自然の美しさや神秘を探究し続けた博士の生涯が、温かみのあるイラストとやさしい言葉づかいで表されています。巻末には国立科学博物館の田中伸幸研究員による解説も掲載。本書を読んで、家の近くにもたしかにある植物の豊かな世界を探してみては？



『写真でみる世界の子どもたちの暮らし
—世界31カ国の教室から』

ベニー・スミス、ザハヴィット・シェイレブ 編著
あかおひでこ 訳
赤尾 秀子 訳
(あすなろ書房)

世界31カ国42人の子どもの姿を、主に学校生活を中心に紹介する大型本。ペルー、アイルランド、ドイツ、フランス、ロシア、中国……。世界の子どもたちはどんな家に住んでいて、どんな授業を受けている？身近で素朴な視点から世界への関心が広がり、居ながらにして世界一周旅行に出たかのような気分になれる一冊。売り上げの一部は、ユニセフの活動資金に充てられます。

5月〈第2回〉「本×生き物 ～集まれ！この地球の素晴らしい仲間たち～」

身近な場所にいる生き物たち、悠久の自然に生きる生き物たち、もう会えない謎に満ちた生き物たち……。この地球でともに生きる仲間たちを通して、自然について、未来について考えてみませんか？定番テーマからちょっと変わり種(?)の図鑑、生き物たちと触れ合える魅力的なスポットも多数紹介！

5/18(木)・5/20(土) 10:30～12:00
参加費 一家族500円(税込)
申込締切 開催前日の19:00

<https://www.schoolfc.jp/extension/j-hiranuma/2023/>

全国から参加可能！



とある花まるの先生が、 わが子の中学受験に直面した

はんにゃ
般若登場

その3

(5年生11月)

久々にカーツと頭に血がのぼった。
「なんでそんな、まったく自分のためにならない
ウソつくの、ありえない……!!」
子どもからあらましを聞き取ったあと、大声で
怒鳴り散らした

「ちょっと聞いてよ!」
と夫へ、事の次第を伝える。

「Sがなんと3か月近くも、毎日の計算と漢字
をちゃんとやっていたら……!!」
見て
よ、この穴あきテキスト!!!
目がつり上がった般若の面のごとき形相で、頭
には角が生えていただろう。背景は雷と暴風雨
だ。

発端は、SがシグマTECHの授業後に、先
生に残されてガツツリ叱られていたこと。
「ほかにやっていないのは?」
「……〇〇です」
「どうしてやらないの?」

「……夏休みが終わって……なんだか毎日やるリ
ズムが戻さなくて……。模試の成績は落ちてな
い……やらなくても大丈夫かなって……」

長い長い沈黙のあと、泣きながら白状するS。
オンライン授業を耳半分で聞いていた私は、S
の告白に驚愕のあまり、ポカンと口が開く。毎朝、
計算と漢字の時間はとっていて

「今日は終わっている?」

「終わっているよ」

とやりとりをしていたのだ。Sと先生の話が終
わったあとに、該当のテキストと一緒に見返す。
見事な穴あき状態。やっている日もあれば、1
週間くらい真っ白な部分もある。中途半端に途
中で終わらせている日もある。クッキーをこっ

そり親にだまされて食べて「食べてないよ」とウ
ソをつきつつ、□元にかけらを残して笑ってい
た2歳の頃のかわいいかわいいうSが頭をよぎる。
もし魔法が使えたならきつと「時間よ、巻き戻
れ!」と大声で叫んでいただろう。

「信頼は一日にしてならず、なんだよ。もう当分、
信頼しない。全部チェックするよ」
夫にもガツツリ叱られたSは、就寝まで終始、
涙目だった。

さて……数日すると、少しは冷静に物事を考
えられるようになる。考えてみれば、教室の子
だつてウソはつく。それは「ウソをついている」
という自覚がない場合もあり、深く考えずにそ
の時々都合の悪い状況を、なんとかぐりぬ
けようとしているだけ、というときも。そして
ウソが暴かれて、「このままでは目の前の人の信
頼を失ってしまう」「自分のためにならないな」
と感じる経験を何回かして、行動が変わってい
く。わが子だけは例外、なんてことがあるわけ
ないのだな……と自分の親バカぶりや期待の高
さを反省するばかりだ。

ちなみに後日、大学時代の友人は
「私も中学受験時代、何のために勉強するのかわ
からなくて、宿題は答えを丸写ししていたよ。
しかも、丸写しとバレないような技を開発して、
いかにごまかすかに命を燃やしていたからね」
と得意げに言っていた。彼女は親が必死に受験
対策した中高一貫校になんとか入学したそうだ
が、その後の大学受験までの間には、コソコソ
真面目派に転向し、推薦入試で大学に入学した。

家族構成

長男 S



4歳から生粋の花まるっ子として過ごす。久々にガツツリ全員に叱
られた今回。さてさていつまでその殊勝さは続くか……。

夫



地方の公立中高出身。少しでも寒くなると真先に「こたつを出
そう」と言ってくる。怒るときはけっこの怒るが、基本は子煩悩
パパ。

私



都内の私立中高出身。過去にはスクールFCで小中学生の英語も
教えていた。花まるの先生。最近買ったボードゲームの名作「カ
タン」は家族の中で勝ち越し中。まだまだ息子には負けたくない
……!と内心思っている。

次男 Y



保育園児。外面がよい甘えん坊。まだまだ下ネタが流行り。ヨシ
タケシスケさんの『おしっこ ちょっぴりもれたらう』を3か月
以上、母に每晚読み聞かせをせがむ。何がそんなにおもしろいの
かまったく理解できないが、ケタケタ笑って毎晩幸せそう。

花まる学習会 川波 朋子

いまでは、優秀な国家公務員としてバリバリ働
いている。
経験値が足りなくて先を見通せなかったり「何
のための勉強か」を明確にできなかったりする
段階の小学生は、ウソやごまかしが発生しやす
い、ということだろう。「ウソやごまかしは誰も
が通る道」だと思えば、5年生のこの時期に発
覚してガツツリ叱られたということは、Sにとつ
てよかったことなのだろう。あと受験まで1年
余り……親子の奮闘はきつとまだまだこれか
ら……。

Q

息子は「ルール」にこだわるどころがあり、学校の工作などでも先生の説明通り、ルールのかきから出ない、ということに慣れすぎている気がして「自由にしたい」ということを体験させたいと思っていました。ほかの子の作品を見て、いろいろ工夫しているなぁと思いました。息子の作品は随分シンプルで小さくまとまったな、と感じましたが、担当の先生に、すごく集中していたことや、なかなか思い通りの形にならず、何度も切っていたと聞き、息子は他人の目を気にせず自分のやりたいことに集中できたんだな、と納得しました。

本当は、作品についてもっと説明してもらったり、先生にどんなふうにも声を掛けられたかなど詳しく聞きたかったりしたのですが、本人は説明が得意ではないので、いまいち様子がわかりませんでした。でも楽しかった気持ちを壊してしまわないように、追求は諦めました。本人が楽しめたのかどうか聞くのに、ほかに本音を聞き出すいい方法があれば、教えてください。

こころと頭を
同時に伸ばす
幼児期の子育て

Rinコラム

46

親子の

コミュニケーション術

A

わかります。外の世界から帰ってきた子どもたちが、どう感じて、どんなことをしたのか、親は根掘り葉掘り聞きたくなるものですね。でも実は、子どもたちにとって「質問」って答えにくかったりするものです。そんなときにとっておきの方法があります。それは、「わたし」を主語にして、「まずはあなたが感じたことを言葉にして伝える」ということです。

たとえばこの子の場合だと、「いい顔していたから楽しかったんだなと（お母さんは）思ったよ」でもいいですし、「緑色の折り紙を選んだんだ（とお母さんは気づいたよ）！」など、ただ見たことを言葉にするだけでもいいのです。

子どもたちは、自分のこと（この場合は作品）に興味を持って感想を言ってくれた人にもっと自分の言葉で伝えたいと思うはずですよ。

そして大事なことは、一回で言えるようになる、とは思わないこと。

普段から、たくさんその子のいいなと思うところについて、お母さんは、こう感じているよ、すごいと思ったよ、ここがいいなと思ったよ、というような言葉のシャワーをもらっている子は、自分の存在自体が愛されていると自信を持っているので、自然と堂々と表現していくものです。

意見や思い、表現された作品がそれぞれ違うのは当たり前。そのどれもが等しく尊重されるという体験をたくさんしていくと、どの子どももともと持っている自分らしい感性を、

どんな場であっても自信を持って伝えていけるようになります。

ちなみに、説明が得意ではない子って、どんな場合があるでしょうか。

① 大人が望む答えを言わないといけないと思っている…安心して自分を表現したい場所だと意見を言える場合が多い

② 普段大人が先回りして、想像して答えてあげすぎている…きちんと説明をする体験総量が足りていないだけ

③ 引つ込み思案で人前ではしゃべらない…内面が豊かに育っていれば、いつか自分で勝手に決めて壁を越えていくから大丈夫

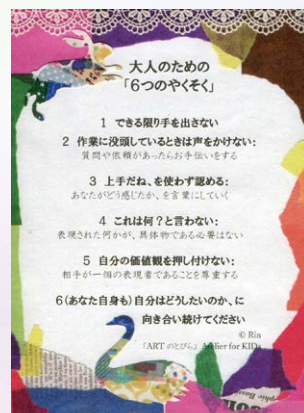
日本語は主語を省略しがちな言語なのですが、「わたしはどう感じたのか」を普段の会話のなかでぜひ意識してみてくださいね。ゆくゆくは社会でも必要になるコミュニケーションスキルの土台を整えていけるはずです。

今回は「大人のための6つの約束」の「6. あなた自身も自分はどうしたいのかに向き合い続けてください」に通じるお話をしました。詳しく読みたい方は『こころと頭を同時に伸ばすAー時代の子育て』（実務教育出版）も手にとってみてくださいね。

Rin（井岡由美）



Atelier for KIDS



6/18(日) 10:30～12:00 絵の具の不思議デカルコマニー

参加費 対面 2,800 円／オンライン 3,100 円（税込・材料郵送費込）
対象 年長～中学生
定員 対面（お茶の水花まるラウンジにて）20 名／オンライン 8 名（ハイブリッド開催）
申込締切 6/1（木）19:00 <https://www.hanamarugroup.jp/art-edu/news.php>



得体の知れないもの

三月の終わり、子どもたちの引率で雪国スクールに行ってきました。今回は貸し切り列車で行くコースです。上野を出発し、窓から見える景色を子どもたちと楽しみながら新潟に向かいました。

今年は桜が早く、東京ではすでに薄緑色の葉が混ざっていました。北上するにしたがい時計の針を戻すように満開に戻っていく桜の姿を見ることができました。川辺に咲く菜の花の色も、春を感じさせてくれます。「あ！ N○○系だ！」とめずらしいと思われる車両に声を上げる子どもいました。どの景色も子どもたちを楽しませてくれましたが、そのなかで子どもたちが最も食い入るように見ていたものがあります。鄙びた温泉街に佇む廃墟です。

かつて温泉街として栄えたその町には、すでに使用されなくなった旅館やホテルが何棟か廃墟として残されていました。全盛期には多くの人が集い、喜怒哀楽のさまざまな感情とともにあったであろう建物。やがてそこに誰もいなくなり、ゆつくりと自然に還っていく。諸行無常、栄枯盛衰。それを意味する言葉はあっても、現実の存在としてそれを体現している廃墟を見ると、大人の私も「得体の知れない」魅力に惹きつけられてしまいます。

東京に戻ると衝撃的なニュースが待っていました。坂本龍一さんの訃報です。数年前から闘病生活を送られていると聞いていたので、いざその日はやってくるとは思っていました。いざその日を迎える想像以上のショックを受けました。

坂本龍一さんは、私がものごころのついた頃にはすでに世界的な音楽家として大成されていました。「教授」と呼ばれバラエティ番組にも出演されていましたが、何がそんなにすごいのかわからない、私にとって「得体の知れない」人でもありました。

しかし、そんな私もついに坂本龍一さんのすごさを知る日がやってきました。ぼんやりとテレビのCMを見ていると、はっとするほど美しい音楽が流れてきたのです。その曲は、冒頭のわずかに八小節のあいだに、複雑な感情が揺れているように聞こえました。それでいて子どもが寝返りをうつような優しいメロディーが包み込み、十五秒とは思えないほどの緊張感がありました。のちに「エナジー・フロー」と名付けられたその曲は、作曲者の予想に反し多くの人の心をつかみ、大ヒットしました。

それから私は、坂本龍一さんの音楽を意識的に聴くようになりましたが、簡単にす



べてをつかめるような作曲家ではありませんでした。「戦場のメリークリスマス」や「ラストエンペラー」のように誰にとっても聴きやすい音楽もあれば、つかみようのない現代音楽のような曲も多く、そういった意味ではいまでも私にとって「得体の知れない」音楽家であり続けています。

大岡信さんの『うたげと孤心』（岩波文庫）によれば、日本の文化を発展させてきたものに「うたげ」と「孤心」というものがあるそうです。「うたげ」とは

みんなで楽しみを共有する場を意味します。現在では日本の伝統的な芸術とされている和歌も、その多くは「うたげ」の場で作られたものだと言います。一方で「うたげ」を離れ、独り自身自身の心と向き合う「孤心」を持つ人だけが瞠目すべき作品を残してきたと、その本には書かれています。

坂本龍一さんはその「うたげ」と「孤心」を一人で体現されてきた人のように思えます。YMOに代表される世界中の若者を熱狂させる音楽をつくる一方、自分自身の求めるものを自分自身のためにつくったかと思えないような作品もあります。それらの音楽はとも一人の人間から生まれたものとは思えないほど多様なものですが、

そのどれもが「坂本龍一」から生まれた音楽としか言いようのない一貫性も持っているように聴こえます。彼がこのような作品を生み続けることができたのは、誰よりも自分自身を疑い、音楽の力を疑い、自分の感覚に正直に向き合った人だったからではないかと私は思っています。残された言葉や、環境保護などの活動にも、簡単にものごとを決めつけない、深く考え続ける人の覚悟を感じるので。

かつて人々が集まり賑わう「うたげ」の場だった廃墟。いまでは閑散としたその姿と向き合うとき、人は自分の「孤心」に向き合うことになります。すべてを理性で理解できると思ってしまうがちな現代人に「得体の知れない」感覚を呼び起こしてくれる存在でもあります。子どもたちも本能的にそれを察しているのでしょう。食い入るように廃墟を見つめる瞳の奥で、普段なかなかつかうことのない感情が動いているのを感じているのかもしれない。

花まる学習会 山崎隆



山崎 隆 Yamazaki Takashi

東京東ブロック教室長。千葉県の内陸部出身。2歳上の姉と3歳下の弟と、だだっぴろい関東平野の片隅で育つ。小さい頃、外遊びはもちろんだが室内で遊ぶのも好きで、図鑑を開いては恐竜の世界を想像していた。高学年の頃より伝記を通して歴史に親しむ。休みの日には、青春18きっぷで目的地もなく出かけることを楽しみにしている。

「いいよ、あげる」

花まる学習会の夏の大イベントといえば、サマースクール。教室では、昨年参加した子たちと多くの思い出話に花が咲き、それを聞いていたまわりの子たちからも、ワクワクした表情で興味がある様子が伝わってきました。

昨年、サマースクールに参加した時のことです。元氣いっぱい男の子8人班を担当し、たったの3日間で笑いもあれば、喧嘩もあり、濃密な時間を過ごしました。

これはそこで出会った2年生Tくんドラマ。行きのバスからまわりの子に積極的に話しかけ、常にお兄さんのような存在で班を引っ張っていくTくん。自分の準備や荷物の整理をサツと終わらせる、困っている下級生に「いっしょにやろうか」と手を差し伸べている姿を何回も目にしました。また常に班のみんなが楽しめるように、という気持ちで行動していました。Tくんにとって今回が初めてのサマースクール。「この夏を最高のものにしたい!」という思いで参加を決意したことを教えてくれました。

たくさん遊んで帰ってきた2日目の夕方。今回Tくんの参加した理由のひとつ

「クワガタを見つけない!」という思い。二日探してもなかなか見つけることができず、森からの帰り道も最後まで諦めることなく、樹や足元を探し続けていました。宿の玄関まで帰ってきて、「見つけれなかった!」と見上げると、そこには一匹のミヤマクワガタの姿が。ものすごく大きな声で「あー!ー!!」と叫ぶと、まわりの子もぞろぞろ集まってきて、あつという間に注目の的に。しかしTくんよりかなり高いところにいるクワガタには、とても手が届きそうにありません。網か何かでとろうと班のみんなで試行錯誤している、別の班の子が網を使っ

てパツと「捕まえたー!」と持って行ってしまったのです。それを見たTくんは、「待って! 僕が見つけたんだよ!」と言い、そこから誰がクワガタを持って帰るのか、話し合いがはじまりました。

花まるコラム

2023年5月

よ」と悔しさややるせない想いを2年生なりの言葉で伝えていました。

2時間近く経ち、そろそろ夕飯の時間です。近寄ってみると突然「いいよ、あげる」と言っ

てその場をあとにしたTくん。彼の表情からはたくさんの悔しさが読み取れ、思わず抱きしめました。「本当は持つて帰

りたかった、でもこのままだとせつかくのサマーが終わっちゃうから!」と私の腕のなかで我慢していた気持ちが涙と一緒にあふれ出しました。その姿を見た班の仲間たちも次々に彼を包み込み、「もっとかっこいいの見つけに行こうぜ!」「ぼくのカエルあげるよ」と心優しい声が飛び交いました。その夜、目を赤く腫らして食べた夕飯。たくさんおかわりをして、心も体もどこかたくましく見えたTくんでした。

自分の想いを押し殺し、話し合

いの最後に見せた優しさは、なかなか出せるものではありません。サマースクールを楽しむ気持ちは思い出し、この時間をもったいない、と感じたのでしょう。また話し合

ける!」と次へ踏み出す前向きな強さとなりました。

人と生きること

花まるの野外体験だからこそ、多くの経験ができ、ひとまわりもふたまわりも大きくなって帰ってきます。この夏、サマースクールで子どもたちと会えるのを楽しみにしています。

花まる学習会 元吉遥子



はな まるの教室長を紹介します！

花まるファミリー

FC …スクールFC アノネ音楽教室 アルゴ …アルゴクラブ オンライン 無人島 Flos …フロス 英語花まる

みんなの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに！



あいざわ
相澤 めぐみ

埼玉 埼玉県



うすき ようじ
白杵 遥志

千葉 福岡県



うらおか みどり
浦岡 翠

神奈川県南 高知県



おおたか しょう
大鷹 翔

神奈川県南 愛知県



くじ あつし
久慈 菜津紀

東京東 岩手県



すかきばら ゆうし
榊原 悠司

東京東 愛知県



すな が しゅうへい
須永 修平

埼玉 群馬県



たておか ともみ
館岡 聡美

東京東 秋田県



たなか りょうこ
田中 涼子

埼玉 埼玉県



ながみ まりさ
永見 真里佐

中京 鳥取県



はなおか ひろや
花岡 宏哉

埼玉 埼玉県



みぎ た ゆうは
右田 優羽

東京南 埼玉県



よしだ
吉田 いつむ

関西 三重県



まんまん
たかはま まさのぶ
高濱 正伸

リーダーネーム
名前
所属
出身地

〇〇〇 熊本県

サマースクールや雪国スクールで会おうね！

5月の誕生花は すずらん



高濱が、花まるの仲間をちょっとおちゃめにワイルドに紹介していく「高濱の他己紹介」がバージョンアップ！高濱が、教室長一人ひとりに
ついてじっくり語ります。どうぞお楽しみに！